

絵手紙実行委員会に  
日本郵便から感謝状

10年間にわたり絵手紙の普及に尽力したとして「絵手紙発祥の地—狛江」実行委員会（曾根嘉七委員長）が日本郵便株式会社から感謝状を贈られた。

4月20日日に帝国ホテルで催された第85回郵政記念日中央式典で横山邦男日本郵便株式会社社長から小玉真砂子副委員長に感謝状が手渡された。

横山社長は「絵手紙は、送る人の温かさが受け取る人によく伝わるので、これからも普及に力を入れてください」と激励。委員たちは「私たちの活動が全国の中から評価されてうれしい。これからもより充実した活動



感謝状を受ける小玉副委員長

を続け、狛江の町おこしにつながっていきたい」と喜んでいました。

岩戸町会50周年記念誌  
地域の歴史や情報掲載

岩戸町会（進藤実会長）が『50周年記念誌』を発行した。

副会長などの町会四役などで構成した記念事業実行委員会（肥後吉郎委員長）の委員が昨年からの編集作業を続けてきた。A4判本文48ページの記念誌は、町会の半世紀を振り返るとともに、町会の本部や8つの専門部会の活動紹介のほか、地域について知ってもらうため、地元の歴史研究家などの協力で「岩戸の今昔」と題し六郷用水や寺社、幼稚園、福祉施設などを取り上げた。

会員約3300世帯と市立図書館や地域センターなどに配布した。また、地域の



記念誌を手にする進藤会長（右）と肥後委員長

人や新しく転入してきた人にも渡して町会への加入促進に役立てるといふ。

問い合わせ ☎5497-0381 岩戸町会事務所。

デフラグビー日本代表  
世界大会前に狛江で合宿

特定非営利活動法人日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟（デフラグビー）の日本代表の合宿が3月24日と25日間に狛江市内などで行われた。落合孝幸監督と大塚貴之主将ら選手たちは、4月にオーストラリアのシドニーで約15年ぶりに開かれたデフラグビー7人制世界大会に向け、最終調整に汗を流した。

当初予定していた代表の合宿がキャンセルされ、困っていることを知った狛江市ラグビーフットボール協会（富永幸伸会長）がグラウンドの提供を申し出て実現した。

23日に日野敦博理事長らが狛江市役所を表敬訪問したのに続いて、24日に東京慈恵会医科大学国領キャンパス運動場、25日に都立狛江高等学校のグラウンドで練習を行ったのに加え、地元の慈恵医大チーム、狛江高校ラグビー部と交流を兼ねた合同練習を行った。

対戦した狛江高校ラグビー部の生徒たちは、耳が不自由とは思えない代表選手たちの素早い動きや的確なプレーなどに驚くとともに、「ぜひ世界大会で良い成績を収めてほしい」とエールを送っていた。グラウンドには、市内の聴覚障がい者が在籍、または事務所・活動拠点・活動範囲に狛江市を含む団体。＊スタート補助金は、4月1日時点で、設立



狛江高校ラグビー部（黄色のユニフォーム）と練習する日本代表

や手話通訳のボランティアなども見学に訪れ、選手に盛んな声援を送っていた。



狛江市歯科医師会が  
27日に健康フォーラム

一般社団法人狛江市歯科医師会が27日午後1時からエコルマホールで公開講座「第6回狛江市歯科医師会市民健康フォーラム21」を催す。

「口から育つ心とからだ、口からはじめる健康、長寿」をテーマに、盛岡市立病院顧問で岩手医科大学名誉教授の杉山芳樹さんが「『口腔がん』は怖くない〜セルフチェックで早期発見〜」、あべこべ体操開発者でフェルデンクライス・メソッド・プラクティショナーの北洞誠一さんが「『あべこべ体操』でゆるゆる体質づくり〜からだをゆるめて血流改善〜」と題して講演する。参加無料。先着200人に粗品プレゼント。

問い合わせ ☎3488-7711（一社）狛江市歯科医師会事務所。

先駆的公益事業を支援  
市民公益活動事業補助金

【補助金の種類】 スタート補助金・チャレンジ補助金

【対象団体】 市民公益活動を行う団体で、次のいずれにも該当する団体。①市民が自主的・自発的に行う不特定多数のもの利益の増進に寄与することを目的とする活動を行う団体②営利活動を行わない団体③宗教、政治、公益を害する恐れのある活動を目的としない団体④狛江市に住所がある役員が在籍、または事務所・活動拠点・活動範囲に狛江市を含む団体。＊スタート補助金は、4月1日時点で、設立



◆ 66 ◆

は、すべての作業を自店で行うクリーニング店。

創業者で店長の柴田照夫さん（77）は会社員の長男として渋谷区幡ヶ谷で生まれた。高校卒業後の昭和33年に新宿区四谷にある老舗クリーニング店に住み込みで就職した。当時は徒弟制度が残っており、照夫さんは得意先回りができるようになった後、先輩のやっている洗濯、アイロンかけ、しみ抜き、袋入れなどクリーニングに関わる仕事を見て、試行錯誤しながら身に付けた。

38年にクリーニング師の資格を取得した照夫さんは、41年に両親が引越した現在の場所に小さな店舗を建て、



（左から）柴田弘子さん、照夫さん夫妻

衣類の素材に合わせてきめ細かい配慮

柴田クリーニング

勤務先の店の支店として独立した。当時、店の周辺は「寛東」と呼ばれていたが、まだ狛江第五小学校の開校前で、畑が広がり、家の2階から小田急線の電車が見えたという。開店後は地元の行事に参加して知り合いを増やすなどして顧客の獲得に努めた。42年に遠縁で愛知県岡崎市生まれの弘子さん（75）と結婚。弘子さんの実家もクリーニング店で、幼い頃から家業を手伝い、両親から技術を習い、17歳でクリーニング師の資格を取った。

柴田さん夫妻は結婚後に完全に独立、弘子さんが自転車で近隣を回って顧客を開拓するとともに難しい仕事を担当、洗濯機など新しい機械を次々と導入して二人三脚で店を軌道に乗せた。その頃には大手不動産会社の開発で周辺に家が建ち、顧客も増えた。

55年にもらい火で柴田さんの店舗兼住宅が全焼。家族は全員無事だったが、失火の保証はほとんどなく、ゼロからの再出発を余儀なくされた。そ

うした中で、火災直後から仮住まいや仮店舗を提供する申し出があるなど、地元の人た

ちから物心両面の援助の手が寄せられ、柴田さん夫妻を感激させた。夫妻は業務の回復に努めたが、その際、奇跡的に燃え残った顧客台帳が役立った。また、この災難をきっかけに、地域への愛着が深まり、地元へ根付いた仕事をするこの大切さを知ったという。

同店では、衣類の素材に合った洗濯を行うようにきめ細かい配慮をしているのが特色で、衣類を次のシーズンまで保管するサービスも好評だ。お客の専門的な質問にも答えるなど、ていねいに対応するため、長いつきあいのある顧客が多く、遠方へ転居してからも依頼する人もいる。

長男の親さん（45）は短大卒業後、25歳で家業を継いだ。顧客の開拓に力を注ぐかわら、洗濯技術の習得にも努め、平成27年にクリーニング師の資格を取得した。親さんは「地元の皆さんに支えられて続けてこられた。これまで以上に、細かいところに気を配り、お客様それぞれのニーズに対応するクリーニング店をめざしています」と話している。

柴田クリーニング店 ☎3489-2977 営業時間＝午前7時～午後7時。日曜・祝日休み（ゴールデンウィークは営業）

昭和41年に創業／地域に支えられ夫婦二人三脚で業務を拡張

から3年を経過しておらず、過去に同補助金の交付を受けたことがない団体に限る。＊チャレンジ補助金は、平成27年度以降に交付を受けたのが3回未満の団体に限る。【対象となる事業】 交付決定日以降30年度内に市内で行われる、先駆的で将来性のある事業、または市民ニーズや地域性に適合した特徴ある事業（市の他の補助金等の財政支援の対象となる事業は除く）。【補助金額】 スタート補助金は上限5万円で、チャレンジ補助金の上限は20万円。【提出書類】 ①指定の申込書②団体概要書（スタート補助金のみ）③事業計画書④収支予算書⑤定款または

会則等⑥名簿⑦貸借対照表（NPO法人のみ）【応募締切】 5月7日までに狛江市地域活性化課コミュニティ文化係へ【選考方法】 公開プレゼンテーション方式（スタート補助金申請団体は書類選考のみ）。選考会は5月27日。＊詳細は市ホームページをご覧ください。【問い合わせ】 ☎3430-1111 狛江市地域活性化課コミュニティ文化係。

狛江らしいまちづくりに向け  
協働事業の提案を募集

狛江市では、市民と行政が一緒になって地域の課題解決に取り組むことをめざし、公益的な活動を行って

いる市民団体などの専門性や柔軟性を生かした協働事業の提案を募集している。

平成31年度に実施されることや狛江市内で行われる事業であるなど、一定の要件を満たしていれば、どんなテーマでも自由に提案することが可能。「良いアイデアがあったら、気軽に問い合わせを」と市政策室では呼びかけている。

【募集期限】 6月8日 選考は公開プレゼンテーションと公開審査会で行う。詳細は市ホームページ（提出書類のダウンロード可）を参照。

【問い合わせ】 狛江市政策室協働調整担当 ☎3430-1111

商店街

コマエリアがリニューアル

狛江の地域総合情報検索サイト「コマエリア」(http://komaeria.com/) が4月1日日にリニューアル・オープンした。

「コマエリア」は100を超える市内の店舗などの情報、市内で実施される各種イベント情報を配信しており、運営している狛江市商工会では「狛江の情報を知りたいときなどに『コマエリア』をぜひ活用して」と呼びかけている。

問い合わせ ☎3489-0178 狛江市商工会。

春のバラ展

狛江バラ愛好会（代表幹事・櫻岡千代子さん）が12日と13日午前10時～午後4時30分に西河原公民館1階ギャラリーで春のバラ展を催す。

同会では、バラの開花シーズンに合わせて毎年テーマを決めて開催しており、今回で29回を数える。ことしのテーマは「つるバラの魅力」で、さまざまな種類のつるバラを展示するほか、つるバラの枝をアレンジした作品を飾り、その魅力を伝える。また、27人の会員が育てた大輪やオールド、モダンタイプ、ミニバラなど100種以上を展示、栽培の相談も行う。



バラ展の準備

同会は、昭和59年に狛江市が市内の緑化を目的に当時狛江在住の日本バラ会会員などを講師に招いて園芸教室を開催、その受講生が中心となり昭和60年に発足。バラ園の見学会や市民向けの栽培の講習会を開催するなど、バラを通してさまざまな交流を行っており、将来はバラの実習園を開設したいという。

問い合わせ ☎090（5203）4195 櫻岡さん。